

始



大正六年五月

大正五年度業務功程

茨城縣立農事試驗場



14.24-325

大正五年度業務功程目次

第一 試驗

(一) 水	.....	一
耕種梗概	.....	一
一、品種試驗	.....	二
二、品種豫備試驗	.....	三
三、新品種試驗	.....	四
四、豐凶考照試驗	.....	五
五、窒素質肥料效力比較試驗	.....	六
六、堆肥效力試驗	.....	七
七、石灰加用試驗 (其一)	.....	八
八、石灰加用試驗 (其二)	.....	九
九、耕耘深淺對肥料用量試驗	.....	一〇
十、增收法試驗	.....	一一

大正  
6. 5. 31  
内交



十一、裏作跡比較試驗.....	一五
十二、追肥試驗.....	一五
(二) 陸 稻.....	一八
耕種梗概.....	一八
一、品種試驗.....	一八
二、品種豫備試驗.....	一九
三、肥料配合法試驗.....	二〇
四、首蒞跡作試驗.....	二一
(三) 麥.....	二二
耕種梗概.....	二二
一、品種試驗.....	二三
二、品種豫備試驗.....	二五
三、播種期對播種量試驗.....	二五
四、耕耘深淺對肥料用量試驗.....	二七
五、土入回數試驗.....	二八

18.00  
交内

六、追肥時期試驗.....	二八
七、一要素增減試驗.....	三〇
八、金肥用量試驗.....	三二
(四) 大 豆.....	三三
耕種梗概.....	三三
一、品種試驗.....	三三
二、糞灰用量試驗.....	三四
三、石灰加用試驗.....	三五
四、收穫期試驗.....	三六
(五) 小 豆.....	三六
耕種梗概.....	三六
一、品種試驗.....	三七
(六) 甘 藷.....	三七
耕種梗概.....	三七
一、品種試驗.....	三八



	二、肥料配合法試驗.....	三九
(七)	蔬 菜.....	三九
	一、茄 子.....	四〇
	(イ) 假植回数試驗.....	四〇
	(ロ) 肥料用量試驗.....	四〇
	二、胡 瓜.....	四〇
	(イ) 假植回数試驗.....	四〇
	三、南 瓜.....	四〇
	(イ) 假植回数試驗.....	四一
	四、葱 頭.....	四一
	(イ) 品 種 試 驗.....	四一
	(ロ) 直播對移植試驗.....	四一
	(ハ) 平畦對揚畦比較試驗.....	四一
	(ニ) 播種期對移植期試驗.....	四一
	五、甘 藍.....	四二

	(イ) 假植回数試驗.....	四二
	(ロ) 定植期試驗.....	四二
	(ハ) 磷酸成分増減試驗.....	四二
	六、瓜 哇 薯.....	四二
	(イ) 品 種 試 驗.....	四二
	(ロ) 栽植期試驗.....	四三
	(ハ) 種薯大小比較試驗.....	四三
	(ニ) 種薯切斷法試驗.....	四三
	(ホ) 種薯截切可否比較試驗.....	四四
	(ヘ) 種薯新舊比較試驗.....	四四
	七、牛 蒡.....	四五
	(イ) 播種期試驗.....	四五
	八、薑.....	四五
	(イ) 品 種 試 驗.....	四五
	九、里 芋.....	四五



(1)	直植對移植試驗.....	四五
(口)	種芋親子比較試驗.....	四五
十、落	花生.....	四六
(1)	播種期試驗.....	四六
(口)	品種試驗.....	四六
十一、葱	.....	四六
(1)	窒素成分增減試驗.....	四六
(口)	葱苗乾燥試驗.....	四七
十二、胡	蘿蔔.....	四七
(1)	窒素成分增減試驗.....	四七
(口)	刺戟肥料加用試驗.....	四七
十三、蘿	蔔.....	四八
(1)	追肥回數及施肥期試驗.....	四八
十四、蕪	菁.....	四八
(1)	追肥回數及施肥期試驗.....	四八

十五、結	球白菜.....	四八
(1)	磷酸成分增減試驗.....	四九
(口)	平畦揚畦比較試驗.....	四九
(ハ)	刺戟肥料加用試驗.....	四九
十六、菠	蕸草.....	四九
(1)	刺戟肥料加用試驗.....	四九
(口)	播種期試驗.....	四九
十七、豌豆	.....	四四
(1)	軟莢用豌豆品種試驗.....	九五
第二	純系淘汰.....	五〇
第三	原種圃.....	五九
(一)	水稻原種圃.....	九九
(二)	麥原種場.....	六一
第四	果樹栽培試驗地.....	六二



第五 調 査 ..... 六四

(一) 玄米並ニ穀貯藏ニ關スル調査 ..... 六四

第六 練 習 生 ..... 六七

第七 講 習 ..... 六八

第八 肥料配合實地指導 ..... 六九

第九 野鼠驅除 ..... 七〇

第十 種 苗 配 付 ..... 七一

第十一 分 析 ..... 七四

第十二 雜 ..... 七六

十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

### 大正五年度業務功程

#### 第一 試 驗

(一) 水 稻

耕 種 梗 概

苗 代

一、整地 稻收穫後三回耕耘ヲ行ヒ幅四尺ノ短冊形トナシ周縁ニハ底幅五寸高サ

四寸位ノ小畦ヲ造リ其間ニ幅一尺ノ通路ヲ設ケタリ

肥料 苗代十歩ニ施用セシ肥料

人 糞 尿 ..... 一〇、〇〇〇

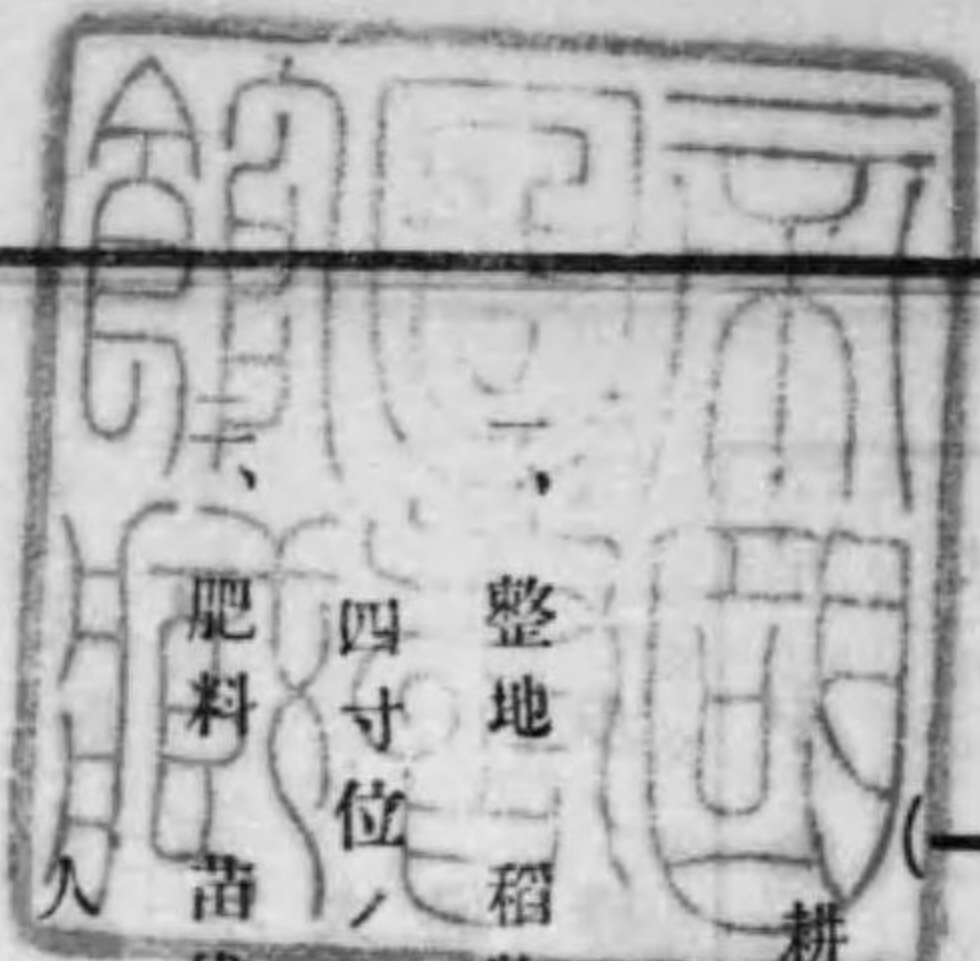
大 豆 粕 ..... 八〇〇

過 磷 酸 石 灰 ..... 三〇〇

葉 灰 ..... 一、五〇〇

三、選種及浸種 種子ハ鹽水選ヲ爲シ七晝夜間清水ニ浸セリ

四、播種期 早中晩稻ヲ通シ四月二十五日ニ播種セリ





五、播種量 苗代一步ニ付大粒種ハ四合小粒種ハ三合ヲ標準トセリ  
 六、害虫驅除 苗代五畝歩ニ對シ誘蛾燈一個ノ割合ヲ以テ苗代ヨリ一間位ヲ隔テ葉先ヨリ約一尺ノ高サニ點火シ螟蛾ヲ誘殺シ且ツ時々苗代ヲ巡視シ卵塊ノ採收ヲ行ヒタリ

本田

一、肥料 本田一反歩ニ施用セシ肥料

堆肥 二〇〇、〇〇〇  
 大豆粕 一七〇〇〇  
 過磷酸石灰 四、五〇〇

二、一步ノ株數及一株ノ本數

早中晚別	縱株間	横株間	一步ノ株數	一株ノ本數
早 稻	七五、〇	七五、〇	六四	八本
中 稻	七五、〇	八五、七	五六	六本
晚 稻	八五、七	八五、七	四九	四本

三、插秧 早稻六月上旬中晚稻ハ六月中旬

四、除草 移植後二週間ヲ經タル頃蟹瓜打ヲ行ヒ其後一週間毎ニ除草三回行ヒタリ  
 五、害虫驅除 三反歩ニ一個ノ割合ニ誘蛾燈ヲ點シ螟蛾ヲ誘殺シ又被害莖ヲ根本ヨリ切り取りテ燒却セリ  
 六、收穫及調製 穂首ノ黄變シタル時刈り取り小把トナシテ稻架ニ懸ケ充分乾燥シタル後扱キ落シ更ニ晴天ノ日ヲ選ビ蓆ニ擴ケ二日間乾燥シタル後扱摺ヲナセリ

一、品種試驗

本試驗ハ豫備試驗ニ於テ優良ト認メタル品種ヲ栽培シ收量品質等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスルモノニシテ粳二十六種糯二種ニ就キ試驗シタル結果成績良好ナルモノ次ノ如シ

品 種 名	粳糯別	種子取寄先	收 量	成 熟 期	品 質
愛 國	粳	本縣久慈郡	二、三二三	一〇、四	下ノ上
常 豐	全	當場選出	二、三〇六	一〇、二	下ノ上
信 愛	全	畿内支場	二、二五一	九、二九	中ノ下



關取糯	藤早稻	赤珍光	龜ノ尾	早稻九號	金芒愛頸	無芒愛國	虎ノ尾	國益	玉錦	改良玉錦
糯	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
神奈川縣	本縣郡	長野縣	山形縣	畿内支場	本縣郡	畿内支場	埼玉縣	全郡	本縣郡	當場選出
一、九一七	二、〇〇二	二、〇〇三	二、〇一五	二、〇二四	二、〇六〇	二、一〇四	二、一五二	二、一八七	二、二〇九	二、二四六
一〇、二二	九、一八	九、二七	九、二八	一〇、二三	九、二五	一〇、四	九、二九	一〇、二二	一〇、七	一〇、七
上ノ下	下ノ上	上ノ中	中ノ上	中ノ下	下ノ中	下ノ中	中ノ上	上ノ中	上ノ下	上ノ中

二、品種豫備試驗

本試驗ハ多クノ品種ヲ蒐集栽培シ其優劣ヲ比較シ以テ良好ト認メタルモノヲ品種試驗ニ加ヘントス而シテ粳五十七種糯十三種ニ就キ試驗シタル結果成績良好ト認ムルモノヲ擧クレバ次ノ如シ

粳

川流	茨城二號	原田錦	茨城一號	富野錦	水野錦	國富	神稻	新關取	常陸山	中千代	晚愛國	白芒	須賀一本
晚	中	晚	全	中	早	中	全	晚	中	早	晚	中	晚
本縣東茨城郡	當場選出	本縣新治郡	當場選出	本縣鹿島郡	富山縣	群馬縣	本縣稻敷郡	愛知縣	本縣稻敷郡	本縣眞壁郡	富山縣	全東茨城郡	本縣稻敷郡

早中晚別

種子取寄先



白河	大和	亦見	四日	越ヶ	金砂	雜穀	永田	早稻	本縣
中	晚	中	全	早	中	晚	全	早	鹿島郡
本縣	奈良縣	富山縣	埼玉縣	東京府	本縣	東京府	愛知縣	本縣	本縣
猿島郡	良縣	山縣	玉縣	京府	行方郡	京府	知縣	鹿島郡	鹿島郡

三、新品種試驗

本試驗ハ農商務省農事試驗場畿内支場ニ於テ育成シタル新品種ヲ在來ノ優良品種ト比較シ以テ本縣ニ適スル良品種ヲ撰定セントスルモノニシテ粳十三種ニ就キ試驗シタル結果收量二石以上ノモノヲ舉クレバ左ノ如シ

中稻五十號	早稻五十八號	全十號	全二十三號	全五十七號	全七十四號	中稻二號	信州金子	愛國錦	玉
一〇月二日	一〇月二日	九〇月二日	一〇月二日	九〇月二日	九〇月二日	九〇月二日	九〇月二日	九〇月二日	九〇月二日
二、七、九	二、五、六	二、三、七	二、三、〇	二、二、九	二、二、九	二、二、九	二、一、四	二、一、四	二、〇、九
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
新	新	新	新	新	新	新	新	新	新
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
考	考	考	考	考	考	考	考	考	考

四、豊凶考照試驗

本試驗ハ同一品種ヲ年々同地ニ栽培シ其年ニ於ケル豊凶ヲ考照セントスルモノニシテ早稻ニアリテハ上總コボレ、信州金子、石白、中稻ニアリテハ愛國、玉錦、關取、晚稻ニアリテハ八重穂ビツクリ、神力ノ九種ニ就キ試驗シタル結果三種平均早稻ハ二石一斗一升八合中稻ハ二石三斗四升五合晚稻ハ一石九斗七升五合ニシテ之ヲ平年ニ比



スレバ早稻ハ一分四厘強中稻ハ七分五厘弱晚稻ハ一分八厘強ノ增收ナリ

### 五、窒素質肥料效力比較試驗

各種ノ窒素質肥料ガ米質收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルカヲ知ランガ爲メ堆肥二百貫大豆粕十七貫過磷酸石灰四貫五百匁ヲ標準トナシ大豆粕ニ代ユルニ硫酸アムモニア石灰窒素、鱈粕、大豆、人糞尿ヲ以テシ其成分ノ過不足ハ過磷酸石灰及人糞尿區之ニ順次シ米質ニアリテハ殆ント差異ナシ

### 六、堆肥效力試驗

本試驗ハ堆肥ノ效力ヲ知ランガ爲メ堆肥二百貫大豆粕八貫五百匁硫酸アムモニア二貫九百七十五匁過磷酸石灰四貫七百三十五匁人糞尿三貫八百匁ヲ標準トナシ堆肥二百五十貫全三百貫全三百五十貫全四百五十貫ト次第ニ用量ヲ増加シ堆肥ヲ増スニ從ヒ金肥ヲ減シテ同成分トナシ試驗シタル結果收量最モ多キハ堆肥三百五十貫區ノ二石二斗四升六合ニシテ堆肥二百貫區全二百五十貫區全三百貫區全四百五十貫區ト順次收量ヲ減セリ

### 七、石灰加用試驗

其一

堆肥ニ石灰ヲ加用シ其效力ヲ多カラシムルニハ幾何量ノ石灰ヲ施用スベキカ併セテ米質及土壤ニ及ホス影響ヲ知ランガ爲メ完熟堆肥三百貫中熟堆肥三百八十八貫新鮮堆肥五百十貫ニ對シ夫々石灰用量ヲ三十貫、四十貫、六十貫、七十貫ノ別ヲ設ケ中稻玉錦ヲ以テ試驗シタル結果米質及土性ニアリテハ殆ント差異ナク其收量左ノ如シ

堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	石灰加用	
								石灰	收量
完熟	完熟	完熟	完熟	完熟	完熟	完熟	完熟	三	一九七七
百貫	百貫	百貫	百貫	百貫	百貫	百貫	百貫	四	二〇〇三
三	三	三	三	三	三	三	三	六	二二二八
十	十	十	十	十	十	十	十	七	二二二一
百	百	百	百	百	百	百	百	三	一八六八
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	四	一八六八
中熟	中熟	中熟	中熟	中熟	中熟	中熟	中熟	六	二〇〇八
三百	三百	三百	三百	三百	三百	三百	三百	七	二二二六
八	八	八	八	八	八	八	八	六	二一九二
十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	三	二〇六六
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	四	二〇六六
新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	五	二一〇五
五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	六	二一〇五
十	十	十	十	十	十	十	十	七	二一〇五
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	八	二〇八八
五	五	五	五	五	五	五	五	九	二〇八八
百	百	百	百	百	百	百	百	十	二〇八八
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	十一	二〇八八
新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	新鮮	十二	二〇八八
五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	十三	二〇八八
十	十	十	十	十	十	十	十	十四	二〇八八
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	十五	二〇八八



八、石灰加用試験 其二

紫雲英ニ石灰ヲ加用シ其肥效ヲ大ナラシムルニハ幾何量ノ石灰ヲ加用スベキカ併  
セテ米質及土性ニ及ホス影響ヲ知ランガ爲メ紫雲英三百貫、四百貫、五百貫ニ對シ夫  
々石灰用量ヲ二十貫、四十貫、六十貫ノ區別ヲ設ケ中稻玉錦ヲ以テ試験シタル結果米  
質及土壤ニアリテハ殆ント差異ナク其收量左ノ如シ

紫雲英用量	石灰用量		收量
	紫雲英用量	石灰用量	
三百貫	二十貫	二十貫	二、三〇八
三百貫	四十貫	四十貫	二、三三〇
三百貫	六十貫	六十貫	二、三九九
四百貫	二十貫	二十貫	二、四四七
四百貫	四十貫	四十貫	二、四四六
四百貫	六十貫	六十貫	二、四二一
五百貫	二十貫	二十貫	二、四三九
五百貫	四十貫	四十貫	二、五〇三
五百貫	六十貫	六十貫	二、四〇四

九、耕耘深淺對肥料用量試驗

耕耘ノ深淺ト肥料用量トノ關係ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ラ

ンガ爲メ耕耘ノ深サヲ四寸、六寸、八寸トナシ更ニ肥料用量ヲ標準(反當堆肥二百貫大  
豆粕八貫五百、硫酸アムモニア二貫九百七十五、灰三貫八百、五割増、倍増トナ  
シ中稻玉錦ヲ以テ試験シタル結果左ノ如シ

耕耘ノ深サ	肥料用量		收量
	標準肥料	肥料用量	
四寸耕起	標準肥料	五割増肥料	一、七四九
四寸耕起	標準肥料	倍増肥料	二、一三九
四寸耕起	標準肥料	五割増肥料	二、二四四
六寸耕起	標準肥料	倍増肥料	一、八一六
六寸耕起	標準肥料	五割増肥料	二、二〇四
六寸耕起	標準肥料	倍増肥料	二、一七〇
八寸耕起	標準肥料	五割増肥料	一、九八六
八寸耕起	標準肥料	倍増肥料	二、一四二
八寸耕起	標準肥料	五割増肥料	二、一〇四

十、增收法試験

多量ノ收穫ヲ得ンニハ肥料用量及一步ノ株數一株ノ本數ヲ如何ニ増減スベキカラ  
知ランガ爲メ標準肥料堆肥二百貫大豆粕八貫、硫酸アムモニア二貫九百七十五、過  
磷酸石灰五貫百三十五、及其倍増肥料ノ別ヲ設ケ株數ヲ七十二株、八十四株、百二十



株百四十株トナシ何レモ一本二本三本ト一株ノ本數ヲ異ニシ中稻常豊及關取種ニ就キ試驗シ結果常豊種ニアリテ收量最モ多キハ倍増肥料百四十株二本植ノ三石二斗六升八合ニシテ百四十株三本植ノ三石二斗四升二合之ニ次キ關取種ニアリテハ倍増肥料百二十株二本植ノ二石七斗六升三合ニシテ八十四株三本植ノ二石七斗五升二合之ニ次ケリ即チ左ノ如シ

中稻常豊		中稻常豊		中稻常豊		中稻常豊	
一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數
七十二株	三	七十二株	二	七十二株	二	七十二株	一
八十四株	三	八十四株	二	八十四株	二	八十四株	一
百二十株	三	百二十株	二	百二十株	二	百二十株	一
百四十株	三	百四十株	二	百四十株	二	百四十株	一
收量	二、四、九、二	收量	二、四、四、三	收量	二、五、五、七	收量	二、四、二、四
	二、六、一、一		二、六、二、五		二、六、二、五		二、六、一、一
	二、三、八、八		二、三、八、八		二、三、八、八		二、三、八、八
	二、六、四、一		二、六、四、一		二、六、四、一		二、六、四、一
	二、五、七、七		二、五、七、七		二、五、七、七		二、五、七、七
	二、四、八、七		二、四、八、七		二、四、八、七		二、四、八、七
	二、六、二、三		二、六、二、三		二、六、二、三		二、六、二、三
	二、六、六、七		二、六、六、七		二、六、六、七		二、六、六、七

中稻常豊		中稻常豊		中稻常豊		中稻常豊	
一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數	一步ノ株數	一株ノ本數
七十二株	三	七十二株	二	七十二株	二	七十二株	一
八十四株	三	八十四株	二	八十四株	二	八十四株	一
百二十株	三	百二十株	二	百二十株	二	百二十株	一
百四十株	三	百四十株	二	百四十株	二	百四十株	一
收量	二、六、九、六	收量	二、七、三、〇	收量	二、五、九、八	收量	二、八、二、六
	二、八、四、〇		二、八、四、〇		二、八、四、〇		二、八、四、〇
	三、〇、一、三		三、〇、一、三		三、〇、一、三		三、〇、一、三
	三、一、〇、三		三、一、〇、三		三、一、〇、三		三、一、〇、三
	三、一、一、三		三、一、一、三		三、一、一、三		三、一、一、三
	三、一、一、三		三、一、一、三		三、一、一、三		三、一、一、三
	三、〇、四、四		三、〇、四、四		三、〇、四、四		三、〇、四、四
	三、二、六、八		三、二、六、八		三、二、六、八		三、二、六、八
	三、二、四、二		三、二、四、二		三、二、四、二		三、二、四、二
	二、四、五、四		二、四、五、四		二、四、五、四		二、四、五、四
	二、五、八、四		二、五、八、四		二、五、八、四		二、五、八、四
	二、四、二、四		二、四、二、四		二、四、二、四		二、四、二、四



八十四株	百二十株	百四十株	一步ノ株數	七十二株	八十四株	百二十株	百四十株
本本本	本本本	本本本	一株ノ本數	本本本	本本本	本本本	本本本
二、三五七	二、五九八	二、五九八	收量	二、五九八	二、五九八	二、五九八	二、五九八
二、五九八	二、五九八	二、五九八	中稻關取	二、五九八	二、五九八	二、五九八	二、五九八
二、五九八	二、五九八	二、五九八	倍増肥料	二、五九八	二、五九八	二、五九八	二、五九八
二、五九八	二、五九八	二、五九八		二、五九八	二、五九八	二、五九八	二、五九八

十一、裏作跡比較試驗

裏作種類ノ異ナル跡地ハ水稻ノ收量ニ如何ナル差異アルモノナルカラ知ランガ爲メ紫雲英苜蓿大豆油菜豌豆大豆馬鈴薯等ニ就キ中稻玉錦ヲ以テ試驗シタル結果左ノ如キ成績ヲ示セリ

苜蓿	紫雲英	大豆	油菜	豌豆	大豆	馬鈴薯	休馬鈴
二、一三二	二、九七九	二、一〇六	二、二四五	二、四四二	二、一四二	二、三五六	二、二四五
本植	本植	本植	本植	本植	本植	本植	本植
百四十株	百四十株	百四十株	百四十株	百四十株	百四十株	百四十株	百四十株

十二、追肥試驗



速效肥料ハ全量ヲ元肥ニ施スト其幾分ヲ追肥トナストニ依リ收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルカ併セテ追肥ノ適期ヲ知ランガ爲メ標準肥料堆肥二百貫大豆粕八貫五百匆硫酸アムモニア二貫九百七十五匆過磷酸石灰四貫七百三十五匆藁灰三貫八百匆及倍増肥料ノ別ヲ設ケ左記方法ニ依リ中稻玉錦ヲ以テ試験シタル結果次ノ如シ

一、試験區別

- 第一、肥料ノ全量ヲ元肥トス
  - 第二、金肥ノ全量ヲ追肥トス
  - 第三、金肥中硫酸アムモニア及過磷酸石灰ノ半量追肥トス
  - 第四、全
  - 第五、全
  - 第六、金肥ノ總テヲ半量追肥トス
  - 第七、全
  - 第八、全
- 六月下旬  
七月下旬  
七月下旬  
七月下旬  
七月上旬  
七月中旬  
七月下旬

一、試験成績

番 號	肥料用量	收 量
第一	標準肥料	二、四四五
第二	標準肥料	二、七〇八
第三	標準肥料	二、五三一
第四	標準肥料	二、三九二
第五	標準肥料	二、二六〇
第六	標準肥料	二、五四二
第七	標準肥料	二、三六三
第八	標準肥料	二、六一七
第九	標準肥料	二、〇九一
第十	標準肥料	二、五四九
第十一	標準肥料	二、三五六
第十二	標準肥料	二、四六七
第十三	標準肥料	二、四三八
第十四	標準肥料	二、三五〇
第十五	標準肥料	二、二九二
第十六	標準肥料	二、四五九



(二) 陸 稻

耕種梗概

- 一、播 種 期 五月十五日(麥間作ハ五月二十五日)
  - 二、畦 幅 二尺
  - 三、播 種 量 反當四升(大粒種ハ四升五合)
  - 四、播 種 法 條播
  - 五、肥 料 反當用量
- 堆肥二百貫、大豆粕十二貫、硫酸アンモニア二貫  
 人糞尿五十貫、過磷酸石灰三貫八百匁
- 六、中耕及除草 中耕三回六月四日、六月二十日、七月十五日
- 七、收 穫 黃熟期ニ刈取リ稻架ニ掛ケ充分乾燥シテ調製セリ

一、品種試驗

本試驗ハ豫備試驗ニ於テ成績良好ト認メタルモノヲ栽培シ收量品質等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスルニアリ而シテ梗糯十五種ニ就キ試驗シタル結果一石三

斗以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ

品 種 名	梗糯別	種子取寄先	成 熟 期	收 量	品 質
戰捷	梗	行方郡	九月二十九日	二、二八一	下
凱旋	糯	群馬縣	九月二十五日	二、〇三〇	中
園部	全	東茨城郡	九月十五日	一、五三六	中
照熊	全	那珂郡	九月十八日	一、五一六	中
吉川	全	那珂縣	九月十四日	一、五〇五	上
關取	全	那珂縣	九月十五日	一、四二三	上
金子坊	全	群馬縣	九月十九日	一、三九八	中
倉澤	全	千葉縣	九月十六日	一、三九一	中
常陸	全	稻敷郡	九月十五日	一、三八九	中
早知	全	鹿島郡	九月十五日	一、三八九	下
水戸	全	東茨城郡	九月十五日	一、三七三	中
信州	全	新治郡	九月十六日	一、三〇七	中

一、品種豫備試驗

本試驗ハ多クノ品種ヲ蒐集栽培シ其優劣ヲ比較シ以テ良好ト認メタルモノヲ品種試驗ニ加ントス而シテ梗糯二十八種ニ就キ試驗シタル結果良好ト認メタルモノハ



大畑博覽會、大和錦、日本錦等ナリハ、  
**三、肥料配合法試験**  
 本試験ハ陸稻ヲ栽培スルニ當リ最モ適當ナル肥料ノ種類及其配合法ヲ知ランガ爲  
 ノ大豆粕、硫酸アンモニア、智利硝石、醬油粕、鯧粕、鯨粕、石灰窒素ヲ主トシ是等ニ夫  
 々堆肥、人糞、尿、過磷酸石灰ヲ加ヘ各區共標準肥料ト同成分ニ配合シテ凱旋ニ就キ試  
 驗シタル結果大豆粕、硫酸アンモニアヲ主肥トセルモノ收量最モ多シ各區ノ收量左  
 ノ如シ

試驗區別	收量
標準區	二、〇九九
大豆粕區	二、二七九
硫酸アンモニア區	二、二七一
智利硝石區	二、二三三
鯨粕區	二、二三一
鯧粕區	二、二〇五
醬油粕區	二、一九九
石灰窒素區	二、一六二
大豆粕區	二、一三五

**四、苜蓿跡作試験**

本試験ハ休閒地ヲ利用スル爲メ苜蓿ヲ栽培シ其跡地ニ於ケル陸稻ノ生育並ニ收量  
 ニ及ボス影響如何ヲ知リ併セテ施肥ノ方法ヲ驗知センガ爲メ凱旋種ニ就キ左ノ試  
 驗ヲ行ヒクリ

- 第一、苜蓿ヲ收穫シタル跡地ニ於テ標準肥料ニテ栽培ス
- 第二、苜蓿ヲ反當三百貫ヲ鋤込ミ標準肥料中ノ堆肥ヲ除キテ栽培ス
- 第三、苜蓿ノ間ニ陸稻ヲ播下シ第一回中耕ノ際苜蓿ヲ收穫シテ畦間ニ鋤込ム  
 但シ標準肥料中ノ堆肥百貫ヲ除キ鋤込ムベキ苜蓿ヲ百貫トス
- 第四、休閒地ニ於テ標準肥料ニテ栽培ス  
 但シ前年陸稻ヲ栽培ス

區名	收量
第一區	二、〇七〇
第二區	一、九八九
第三區	一、八九七
第四區	一、八一〇







三 ゴ ール デン メ ロン	農 山 商 梨 務 省	六 月 四 日	三、三〇二	下	中
珍 谷 子	農 商 務 省	六 月 十 日	三、二一七	中	上
	縣	六 月 三 十 一 日	三、一四九	下	中
	縣	六 月 二 日	三、〇六二	下	上

二、小麥

品 種 名	種子取寄先	成 熟 期	收 量	品 質
橫網	當場選出	六月十五日	二、三二六	中上
資撰	那珂	六月十五日	二、三二一	上
關取	群馬縣	六月十七日	二、三〇八	下上
赤程	那珂郡	六月十四日	二、二八三	中
達摩	農商務省	六月十六日	二、二四六	中
富那	那珂郡	六月十五日	二、二一三	中
三石	當場選出	六月十四日	二、二一〇	中
入梅	行方支	六月十五日	二、一八九	下
穗揃	幾内島	六月十四日	二、一三〇	下
白穂	猿島郡	六月十二日	二、〇六三	中

三、稈麥

品 種 名	種子取寄先	成 熟 期	收 量	品 質
上州白稈	農商務省	五月三十一日	二、四三七	中下
コピン	全場選出	六月三日	二、二二八	中
三筋三島	當場選出	六月二日	二、二二一	中
米六	筑波郡	六月六日	二、一八一	中
稈六	筑波郡	六月六日	二、〇七七	中下

一、品種豫備試験

本試験ハ廣ク品種ヲ蒐集栽培シ其優劣ヲ比較シ以テ良好ト認メタルモノヲ品種試験ニ加ヘントス而シテ大麥十七種、小麥十三種、稈麥六種ニ就キ試験シタル結果良好ト認メタルモノハ大麥ニアリテハ御繕、三重珍子、虎ノ尾、辨慶、小麥ニアリテハ砂川達摩、寶滿、稈麥ニアリテハ「コピンカタギ」ナリ

三、播種期對播種量試験

本試験ハ本縣統一品種中最モ廣ク栽培セラル、大麥竹林、小麥白莢ニ就キ適當ナル播種期ト播種量トヲ知ランガ爲メ大麥ニ於テ播種期ヲ十月二十日、十月三十日、十一月十日ニ別々各期ニ三升播、四升播、五升播、六升播ノ區ヲ設ケ小麥ニ於テハ播種期ヲ



十月十日、十月二十日、十月三十日ニ別チ各期ニ二升播、三升播、四升播、五升播ノ區ヲ設ケ試験シタル結果收量最モ多キハ大麥ニアリテハ十月三十日五升播、小麥ニアリテハ十月二十日四升播ナリ各區ノ成績左ノ如シ

播種期	播種量	大麥收量	小麥收量
十月十日	二升	三、七二〇	一、七七三
	三升	四、〇〇四	一、八一八
	四升	三、六八九	一、九七八
	五升	四、〇二〇	一、七二七
	六升	四、一〇六	一、八三〇
	七升	四、一五五	一、九六二
十月二十日	二升	三、八五一	一、九四六
	三升	三、八九二	一、九四六
	四升	三、八九二	一、九四六
	五升	三、八九二	一、九四六
	六升	三、八九二	一、九四六
	七升	三、八九二	一、九四六
十月三十日	二升	三、一三〇	一、九四六
	三升	三、四九九	一、九四六
	四升	三、七九九	一、九四六
	五升	三、八九二	一、九四六
	六升	三、八九二	一、九四六
	七升	三、八九二	一、九四六

四、耕耘深淺對肥料用量試驗

本試験ハ耕耘ノ深淺ト肥料用量トノ關係ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知センガ爲メ耕耘ノ深サヲ四寸、六寸、八寸トシ之レニ各標準肥料、五割増肥料、倍増肥料トシ大麥竹林、小麥赤稈ニ就キ試験シタル結果大小麥共耕耘ノ深サ八寸倍増肥料區收量最モ多シ各區ノ成績左ノ如シ

耕耘ノ深サ	肥料用量	大麥收量	小麥收量
四寸	標準肥料	三、五〇三	二、一九一
	五割増肥料	三、五四八	二、二八三
	倍増肥料	三、九六二	二、三五八
	標準肥料	三、五九〇	二、二四五
	五割増肥料	三、七五〇	二、三二九
	倍増肥料	四、二四二	二、四四七
六寸	標準肥料	三、五〇三	二、一九一
	五割増肥料	三、五四八	二、二八三
	倍増肥料	三、九六二	二、三五八
	標準肥料	三、五九〇	二、二四五
	五割増肥料	三、七五〇	二、三二九
	倍増肥料	四、二四二	二、四四七



八寸	標準肥料	三、五九一	二、二六三
	五割増肥料	四、一七九	二、三五九
	倍増肥料	四、九七一	二、五七二

### 五、土入回数試験

本試験ハ肥料用量増加ニ對シ土入ノ效果並ニ其適當ナル回数ヲ驗知センガ爲メ標準肥料ノ倍額ヲ施シ之レニ土入ヲ行ハザルモノ一回土入、二回土入、三回土入ノ四區ニ別テ大麥關取ニ就キ試験シタル結果土入回数ヲ増ス毎ニ收量増加セリ即チ左ノ如シ

土入回数	收量
土入ヲナサザルモノ	四、〇三〇
一回	四、二五〇
二回	四、五八六
三回	四、八四〇

### 六、追肥時期試験

本試験ハ速効性肥料ヲ基肥ニ施スト追肥ニ施ストハ何レガ有效ナルカヲ驗知センガ爲メ甲區ヲ人糞尿乙區ヲ硫酸アンモニアトシ次ノ試験區ニ別テ大麥竹林ニ就キ

### 試験ヲ行ヒタリ

- 第一、肥料ノ全部ヲ元肥ニ施ス
- 第二、速効性肥料ノ半量ヲ元肥半量ヲ寒前ニ施ス
- 第三、速効性肥料ノ半量ヲ元肥半量ヲ寒明キ後ニ施ス
- 第四、速効性肥料ノ半量ヲ元肥ニ半量ヲ三月上旬ニ施ス
- 第五、速効性肥料ノ全部ヲ追肥トシテ十二月中旬及三月上旬ノ二回ニ施ス

### 備考 甲區及乙區ノ配合

甲區、人糞尿二百貫堆肥三百貫、大豆粕十貫、過磷酸石灰七貫、藁灰十五貫  
 乙區、硫酸アンモニア五貫七百匁、堆肥三百貫、大豆粕十貫、過磷酸石灰八貫三百匁、藁灰十五貫、硫酸加里一貫二百匁

### 試験成績左ノ如シ

第一	甲區	三、七九三	乙區	三、九二六
第二	甲區	三、七五五	乙區	三、九九一
第三	甲區	三、八七九	乙區	四、〇〇五
第四	甲區	三、七七〇	乙區	三、九三六



七、一要素増減試験

本試験ハ醸造用大麥及製粉用小麥ニ對シ肥料三成分中一成分ノ増減ハ收量品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知センガ爲メ大麥ゴールデンメロン小麥白莢ニ就キ左ノ方法ニテ試験ヲ行ヒタリ

第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區
第 一 名	第 一 名	第 二 名	第 三 名	第 二 名
無窒素	無磷	無磷	無磷	無磷
窒素一貫	磷一貫	磷一貫	磷一貫	磷一貫
窒素二貫	磷二貫	磷二貫	磷二貫	磷二貫
窒素三貫	磷三貫	磷三貫	磷三貫	磷三貫
窒素四貫	磷四貫	磷四貫	磷四貫	磷四貫
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全

試驗成績左ノ如シ

第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區
第 一 名	第 二 名	第 三 名	第 四 名	第 五 名
無窒素	無窒素	無窒素	無窒素	無窒素
窒素一貫	窒素二貫	窒素三貫	窒素四貫	窒素四貫
窒素二貫	窒素三貫	窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫
窒素三貫	窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫
窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫	窒素四貫
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全
全	全	全	全	全



區名	磷酸用量	大麥收量	小麥收量
第一	無磷酸	三、二四五	一、七六一
第二	磷酸一貫	三、六〇七	二、二八五
第三	全	三、八二九	二、三三二
第四	全	三、七三三	二、六六三
第五	全	四、〇〇九	二、八一八
第三、加里增減			
第一	無加里		二、二五四
第二	加里一貫		二、四一九
第三	全		二、四五六
第四	全		二、四八五
第五	全		二、七九〇

### 八、金肥用量試驗

本試驗ハ金肥施用額ノ多少ニヨリ收量及經濟ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セシガ爲メ金肥施用額ヲ四圓六圓八圓十圓トシ大麥竹林ニ就キ試驗シタル結果左ノ如シ

金肥施用額	收量
四圓	三、七七九
六圓	四、〇九一
八圓	四、二七二
十圓	四、六四六

### (四) 大豆

耕種梗概	播種期	播種量	播種法	畦幅	肥料反當用量	堆肥百貫	中耕
一、播種	五月三十日	反當三升	條播	二尺	硫酸アムモニア一貫	過燐酸石灰五貫二百五十匁	三回、六月二十五日、七月八日、七月十五日
二、播種							
三、播種							
四、畦幅							
五、肥料							
六、中耕							

### 一、品種試驗



本試験ハ豫備品種試験ニ於テ成績良好ト認メタルモノヲ栽培シ收量品質等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスルモノニシテ十種ニ就キ試験シタル結果一石以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ

品名	種子取寄先	成熟期	收量	品質
地越	西茨城郡	九月十三日	一、二八八	下上
晚後	那珂郡	九月十二日	一、一九四	中下
小白	東茨城郡	九月十三日	一、一六〇	中下
小目	那珂郡	九月十三日	一、一四五	中下
生目	東茨城郡	九月十一日	一、一二四	下中
稗娘	埼玉縣郡	九月十三日	一、〇八七	中上
東茨城郡	東茨城郡	九月十一日	一、〇八三	中下

### 二、藁灰用量試験

本試験ハ大豆ヲ栽培スルニ當リ藁灰用量増加ハ收量品質ニ如何ナル影響ヲ及ホスカラ驗知センガ爲メ標準肥料及標準肥料ニ夫々藁灰二貫五百匁、五貫匁、七貫匁、十貫匁ヲ加用シ生娘ニ就キ試験シタル結果藁灰ヲ増加スルニ從テ收量多キヲ示セリ即

チ左ノ如シ

#### 試験區別

標準肥料	收量
藁灰二貫五百匁加用	一、〇三二
藁灰五貫匁加用	一、〇五八
全七貫五百匁加用	一、一七二
全十貫匁加用	一、一七四
全	一、二〇四

### 三、石灰加用試験

本試験ハ大豆ヲ栽培スルニ當リ石灰ノ施用ハ大豆ノ收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスカラ驗知センガ爲メ標準肥料及標準肥料ニ夫々石灰五貫匁、十貫匁、十五貫匁、二十貫匁ヲ加用シ生娘ニ就キ試験シタル結果石灰ヲ増加スルニ從ヒ收量多キヲ示セリ即チ左ノ如シ

#### 試験區別

標準肥料	收量
石灰五貫加用	一、〇二三
全十貫加用	一、〇八四
全十五貫加用	一、一二〇
全	一、一二九



全 二十貫加用

一、一九八

三十六

### 四、收穫期試験

本試験ハ大豆收穫期ノ早晚ハ品質ニ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルカヲ驗知センガ爲メ收穫期ヲ早收、中收、晩收ノ三區ニ別テ試験シタル結果品質良好ナリシハ中收ニシテ收穫期ノ遅ル、ハ品質ヲ劣悪ナラシムル傾向アリ

### (五) 小豆

耕種梗概

- 一、播種期 六月四日
- 二、播種量 反當一升五合
- 三、播種法 條播
- 四、畦幅 二尺
- 五、肥料 反當用量
- 堆肥七十五貫、過磷酸石灰三貫八百匁、木灰五貫
- 六、中耕 三回、七月一日、七月十七日、七月二十七日

### 一、品種試験

本試験ハ廣ク品種ヲ蒐集栽培シ收量品質等ニ關スル優劣ヲ比較シ以テ良品種ヲ選出センガ爲メ六種ニ就キ試験シタル結果左ノ如シ

品名	種子取寄先	成熟期	收量	品質
赤色	東茨城郡	九月四日	〇、八五二	中下
薄四	眞壁郡	九月三日	〇、八〇八	中下
夏十日	福井縣	九月六日	〇、八〇〇	中下
錦	東茨城郡	九月十八日	〇、七五九	中下
紫	東茨城郡	九月三日	〇、七五六	中下
早生	新潟縣	九月六日	〇、七四九	中下

### (六) 甘藷

耕種梗概

- 一、伏込期 三月三十日
- 二、插植期 五月二十日
- 三、畦幅 二尺

三十七



- 四、株 間 一尺二寸
- 五、插 植 法 船底植
- 六、中 耕 一回、六月二十日
- 七、肥 料 反當用量

堆肥百貫、大豆粕四貫五百匁、過磷酸石灰二貫二百匁、藁灰八貫  
八、蔓 返 五回、七月十日、七月三十日、八月二十日、九月二十日、十月十日

### 一、品種試驗

本試驗ハ廣ク品種ヲ蒐集栽培シ收量品質等ニ關スル優劣ヲ比較シ以テ良品種ヲ選出センガ爲メ十六種ニ就キ試驗シタル結果四百貫以上收量アリシモノ左ノ如シ

品 種 名	收 量
四 日 郷	五七〇
飯 郷	五五四
鹿 戸	四五六
太 白	四五〇
紫 白	四五〇
高 須	四四五

鹿 兒 島	肩 拔	薄 赤	花 魁	日 赤
四三八	四二一	四一二	四一五	四〇〇

### 二、肥料配合法試驗

本試驗ハ甘藷ヲ栽培スルニ當リ適當ナル肥料ノ種類及其配合法ヲ驗知センガ爲メ米糠大豆粕硫酸アムモニア智利硝石ヲ主肥トシ之レニ堆肥過磷酸石灰藁灰ヲ配合シ各區共同成分ニシ四區ニ別テ試驗シタル結果收量最モ多キハ大豆粕ヲ主肥トシテ配合シタルモノナリ各區ノ試驗成績左ノ如シ

試 驗 區 別	收 量
米 糠 區	四九三
大 豆 粕 區	五二三
硫酸アンモニア區	四九九
智利硝石區	四九二

### (七) 蔬 菜



### 一、茄子

#### イ、假植回数試験

假植回数ノ多少ト其生産上ニ及ボス關係ヲ知ランガ爲無假植、一回假植、二回假植及ビ三回假植ノ四區ニ別テテ試験ヲ行ヒタルニ假植回数多キニ從ヒ草勢強健ニシテ收量多シ

#### ロ、肥料用量試験

肥料用量ノ多寡ハ其生産上如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ驗知センガ爲少量區、中量區及多量區ノ三區ヲ設ケテ試験セルニ其收量ハ多量區最モ多ク少量區ノ最モ少クシテ全ク肥料ノ用量ニ正比例セリ

### 二、胡瓜

#### イ、假植回数試験

一回假植、二回假植及三回假植ノ三區ヲ設ケテ試験セルニ個數ニ於テハ二回假植區最モ多ク一回假植區ノ少キモ其重量ニ於テハ却テ一回假植區ノ大ニシテ三回假植區ニ小ナルヲ見タリ尙ホ又早期收穫ノ多量ナルハ一回假植區ニシテ二回假植區之ニ次グリ

### 三、南瓜

#### イ、假植回数試験

一回假植、二回假植ノ二區ヲ設ケテ試験セルニ二回假植區ノ收量多シ

### 四、葱頭

#### イ、品種試験

七品種ヲ蒐集試験セシニ「シルバースキン」最モ收量多ク品質モ極メテ良好ニシテ「エローグロブダンバース」「ブライズテーカー」在來赤色種等之ニ順次シ在來黄色種ノ收量最モ少ク品質ニ於テ在來赤色種最モ劣レリ

#### ロ、直播對移植試験

直播對移植ノ利害ヲ明ニセンガ爲試験シタル結果收量ニ於テ直播區ノ勝リタルモ抽莖スルモノ亦多シ

#### ハ、平畦對揚畦比較試験

葱頭栽培上平畦及揚畦ノ利害ヲ明ニセンガ爲試験セルニ揚畦區ハ抽莖スルモノ平畦ニ比シ稍多キニ不拘其品質及收量ニ於テ優レリ

#### ニ、播種期對移植期試験

葱頭栽培上播種及移植ノ適期ヲ驗知セン目的ヲ以テ行ヒタルニ良球ノ多量ナリ



シハ九月上旬播十一月月上旬移植セル區ニシテ抽花球ノ最モ少カリシハ九月下旬播三月上旬ニ移植セル區ナルガ小球多クシテ收量少シ、全區ヲ通ジテ抽花球ノ多カリシハ播種期ノ如何ヲ問ハズ十一月中下旬ニ移植シタルモノニ認メタリ

### 五、甘 藍

イ、假値回数試験

三回假植區ノ收量最モ多ク平均一個ノ重量ニ於テハ一回假植區大ナリ

ロ、定植期試験

秋播甘藍ノ定植適期ヲ窺知センガタメ四區ヲ設ケテ試験シタルニ三月九日ニ定植セル區ノ收量最モ多クシテ平均一個ノ重量モ亦大ナルガ十二月三日ニ定植セル區ハ之ニ亞キ最モ劣レルハ三月廿日ニ定植セル區ナリ

ハ、磷酸成分増減試験

磷酸成分ノ増減ハ其結球歩合及收量ニ如何ナル影響アルヤヲ試験シタルモノニシテ結球歩合ノ最モ多キハ標準肥料區ニシテ又收量及平均一個ノ重量ノ最モ勝レルハ二割五分減區ニシテ最モ劣レルハ標準肥料區ナリトス

### 六、瓜 哇 薯

イ、品種試験

十四品種ニ就テ試験セル結果「ブライドオブアメリカン」ノ收量最モ多ク「ブライズターカー」「バーバンクスシードリング」等相順次シ品質ニ於テハ早生ニテ「アーリーロズ」「スノーフレック」中生ニテ「アーリービュチー」オブ「ヘブロン」「ブライドオブアメリカン」晩生ニテ「ルーラルニューヨルカ第二」「アメリカンウオンダー」等ヲ優良トシ疫病不知ハ尤モ劣等ナリ

ロ、栽植期試験

春作瓜哇薯ノ栽植適期ヲ知ランガ爲三區ヲ設ケテ試験シタルニ四月五日ノ栽植區ノ收量最モ優リ三月廿五日ノ栽植區之ニ亞ギ三月十五日ノ栽植區最モ劣レリハ、種薯大小比較試験

種薯ノ大小ハ其生産上幾許ノ影響ヲ及ボスヤ併セテ經濟上ノ得失ヲ研究セントシテ平均廿匁、十五匁、十匁、八匁及ビ五匁ノ五區ヲ設ケテ試験セルニ收量ハ二十匁區最モ多ク八匁區、十五匁區、十匁區及五匁區之ニ順次シ薯ノ大ナルモノ多キハ八匁區ヲ第一トシ十五匁區、五匁區、廿匁區之ニ順次シ十匁區最モ劣レリ

ニ、種薯切斷法試験



本試験ハ大薯ノ種用ニ供スル場合ニ於テ之ヲ切斷スルニ如何ナル方法ヲ最モ適當ナルカラ驗知セントテ五區ヲ設ケテ行ヒタルニ縦ニ扁平部ニ並行シテ斜ニ切半セルモノ最モ收量多ク縦ニ扁平部ニ直角シテ斜ニ切半セルモノ之ニ次ギ横ニ中央ヨリ切半セルモノ最モ少シ

ホ、種薯截切可否比較試験

小薯ヲ種ニ供用スル場合ニ其一端ヲ截切スルノ可否ヲ確メシテ行ヒタルニ丸ノ儘ヲ用ヒタル方收量ニ於テ優レルモ薯ノ大サニ於テハ下端ヲ削レルモノニ比シ稍々劣レリ

ヘ、種薯新舊比較試験

種薯ノ新舊ト其生産上ニ及ボス關係ヲ研究セントテ三區ヲ設ケテ試験セルニ前々年ノ春作薯ノ發芽ヲ抑制シ置キテ前年六月下旬ニ栽植十月月上旬採掘シタルモノヲ當年ノ種用ニ供セルモノ、收量最モ多ク前年春作薯ヲ採收ノ際發芽セルモノ、ミヲ選抜シテ今年七月下旬栽植十一月上旬ニ採掘シタルモノヲ當年ノ種用ニ供シタルモノ之ニ次ギ前年ノ春作薯ヲ當年ノ種用ニ供シタルモノ最モ少シ而テ前二者ハ薯大ナルモ形ノ不正ナルモノ多ク後者ニアリテハ收量少キモ形ノ整

ヒタル点ニ於テ優レリ

七、牛 蒡

イ、播種期試験

牛蒡ノ播種適期ヲ知ラントテ三區ニ別チテ試験セルニ四月五日播區ノ收量最モ多ク四月十五日播區之ニ次ギ三月二十日播區最モ少シ

八、薑

イ、品種試験

本縣ノ風土ニ適合スル良品種ヲ選擇セントテ三品種ニ就テ試験ヲ行ヒタルニ中薑ノ收量最モ多ク大薑之ニ次ギ金時薑最モ少シ品質ニ於テハ生食、漬物用トシテ中薑ノ優リ干薑トシテハ金時薑之ニ適シ製薬用トシテハ大薑ヲ良トス

九、里 芋

イ、直植對移植試験

種芋ヲ其儘栽植スルト一旦之ヲ温床ニ於テ發芽セシメタルモノヲ栽植スルト孰レガ有利ナルカラ比較試験セシニ發芽芋ヲ植タル方ノ收量優レリ

ロ、種芋親子比較試験



種芋トシテ親芋子芋ノ何レヲ供用セバ有利ナルカヲ驗知セシニ多田芋、八ツ頭ノ兩者共ニ親芋ヲ種用ニ供セシ方其收量ニ於テ親芋、子芋共ニ子芋ヲ種用ニ供セシモノヨリ遙ニ多ク殊ニ多田芋ノ子芋收量ノ如キハ二倍以上ノ增收ヲ示セリ

### 十、落花生

イ、播種期試験

落花生栽培上播種ノ適期ヲ知ラントテ三區ニ分チテ試験セシニ四月十四日播區ノ收量最モ多ク四月二十五日播區之ニ亞ギ五月五日播區最モ少シ

ロ、品種試験(農商務省委託外國産品)參考

外國産落花生各種ヲ蒐集栽培シ以テ其優劣ヲ比較對照セシニ直隸省御河沿岸産及ビ山東省泰安府産トハ全收量ニテ第一位ヲ占メ山東省産、山東省一等品選出、山東省産一等品輸出向等ノ順次ニシテ最モ下位ニアリシハ直隸省唐山産ナリ

### 十一、葱

イ、窒素成分増減試験

葱栽培上窒素成分ノ多寡ハ其收量及品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントテ四區ニ別チテ試験セシニ窒素二割五分増區ノ收量最モ多ク標準區之ニ次ギ窒

素五割増區最モ少ク外觀品質ニ於テハ窒素二割五分減區優リ標準區及窒素二割五分増區相順次シ窒素五割増區最モ劣レリ

ロ、葱苗乾燥試験

葱苗乾燥ノ利害ヲ明ニセンタメ四區ニ別チテ試験シタルニ東京根深ニアリテハ乾燥區、九條葱ニアリテハ無乾燥區ノ收量多クシテ外觀品質ニ於テハ何レモ乾燥區良好ナリ

### 十二、胡蘿蔔

イ、窒素成分増減試験

窒素成分ノ多寡ガ胡蘿蔔栽培上如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セントテ四區ニ別チ試験シタルニ窒素二割五分増區ノ收量最モ多ク標準區之ニ次ギ窒素五割増區最モ少ク外觀品質ニ於テハ窒素二割五分増區及ビ窒素二割五分減區良好ニシテ窒素五割増區最モ劣レリ

ロ、刺戟肥料加用試験

鹽化滿俺及ビ硫黃華ノ加用ハ胡蘿蔔栽培上其收量及色澤ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ試験セシニ收量品質共ニ無加用區ノ優リ鹽化滿俺二貫匁加用區之ニ亞ギ



硫黃華二貫匁加用區最モ劣レリ

### 十三、蘿 蔔

イ、追肥回数及施肥期試験

追肥用ノ所定肥料ヲ幾回ニ施用スルヲ利益トナスヤ併セテ施肥適期ヲ驗知セン  
クメ煮食用種、煮食兼淺漬用種及澤庵用種ノ三別トナシ各種ニ就テ試験シタルニ  
煮食用ニアリテハ八月二十六日、九月十六日、十月七日、十月二十日ノ四回追肥區良  
成績ヲアゲ二回追肥區之ニ次ギ三回追肥區最モ劣リシガ煮食兼淺漬用種ニ於テ  
ハ九月十日、九月二十五日ノ二回追肥區最モ收量多ク一回、三回ノ兩追肥區之ニ順  
次シ澤庵用種ニアリテハ九月七日、九月二十一日、十月五日ノ三回追肥區ノ收量優  
リ一回二回ノ兩區之ニ順次セリ

### 十四、燕 菁

イ、追肥回数及施肥期試験

蘿蔔ト全様ノ目的ヲ以テ三區ニ別チテ試験セシ結果二回追肥區ノ收量最モ多ク  
三回、四回ノ兩追肥區相順次スルモ三區相互ノ差異ハ少シ

### 十五、結 球 白 菜

イ、磷酸成分増減試験

ロ、平畦、揚畦比較試験

ハ、刺戟肥料加用試験

右各試験共白斑病ト腐敗病ノ犯ス處トナリ其被害過半数ニ及ビシヲ以テ中途試  
驗ヲ廢絶シタリ

### 十六、菠 薐 草

イ、刺戟肥料加用試験

刺戟肥料加用ノ效果ヲ知ランタメ四區ニ別チテ試験シタルニ反當硫黃華二貫匁  
加用區ノ收量最多ニシテ反當鹽化滿俺二貫匁加用區之ニ次ギ無加用區最モ少シ  
ロ、播種期試験

播種ノ適期ヲ驗知セントラ四區ヲ設ケテ試験セシ結果九月上旬播種區ノ收量最  
モ多ク八月下旬播種區之ニ次ギ九月中旬播種區ノ最モ少キヲ示セリ

### 十七、豌 豆

イ、軟莢用豌豆品種試験

莢豌豆用トシテ内外豌豆五品種ニ就キ試験セシニ米國莢豌豆(アメリカンメルタイ)ノ收



量最モ多ク在來白花豌豆之ニ亞ギ臺灣大莢蔓無莢豌豆相順次シ佛國大莢種最モ少シ品質ニ於テハ佛國大莢、臺灣大莢及在來白花豌豆等ノ優レルモ前二者ハ冬季中寒害ニ犯サレ易キ欠点アリ

## 第二 純系淘汰

純系淘汰第二年度ニ於テ選抜セル基本株ヲ各別ニ水稻ハ二坪半、陸稻ハ三坪半、大豆ハ一坪、大小麥ハ二坪宛ノ地積ヲ與ヘ一本植トナシ各株ヲ調査シ出穂期、草丈、莖數ニ於テハ變異ノ平均價並ニ標準偏差ヲ算出シ遺傳ノ狀況各系ノ純度及ビ收量ヲ調査シ栽培目的ニ添フ良系ト認ムルモノヲ選抜セリ其種類、品種名、系統數及ビ選抜系統數ヲ示セバ左ノ如シ

種類	品種名	系統數	選抜系統數
水稻	上總コボレ	一八〇	三〇
陸稻	愛國	一八〇	三〇
大豆	凱旋	九〇	一八
陸稻	旋國	九〇	一八
大豆	生娘	二四三	二〇
陸稻	林娘	一〇五	目下生育中

又選抜系統ノ號名、收量及出穂期、草丈、莖數ノ平均價並ニ標準偏差ヲ示セバ次ノ如シ

一、水稻 早稻 上總コボレ 調査系統數 一八〇

選抜系統號名	二坪半收量	出穂期		草丈		莖數	
		平均價	標準偏差	平均價	標準偏差	平均價	標準偏差
一〇	四七三	六、三六三	一、四八九	二八、九三三	一、三三三	八、三九四	二、〇七六
一一	四七三	七、〇七九	一、四四〇	二八、七〇三	一、三三三	八、七〇〇	一、八五九
一二	四七三	七、三三九	一、八九九	二七、六六六	一、三九五	七、九八七	二、一八八
一三	四七三	九、二八六	一、〇八三	三九、二二七	一、四六九	六、八九八	一、五七三
一四	四七三	五、八八九	一、五五一	三〇、四〇三	一、二四六	八、八二八	一、九九九
一五	四七三	六、八二八	一、六三四	三〇、三一九	一、二六九	一〇、一四五	二、四七三
一六	四七三	八、三五〇	一、四三四	二八、四三四	一、四一六	七、四〇〇	一、八四六
一七	四七三	七、三八〇	一、四二九	二九、一一二	一、三九九	七、二八七	二、一九三
一八	四七三	五、六九四	一、三六六	三三、八六〇	一、三、一〇	八、三六四	二、一三八
一九	四七三	二、三三九	二、四〇〇	二六、七、三三	一、三、八三	八、九六九	二、四〇六
二〇	四七三	八、四二八	一、三、一五	二六、九、六九	一、五、二二	六、六、五九	一、八、五〇















之レヲ六年度ノ原種圃ニ栽培スルコトトセリ其ノ成績左ノ如シ

一、愛 國

系統番號	反當籾容量	反當玄米容量
一	三、五八一	二、二八〇
二	三、五五〇	二、二六一
三	三、六五六	二、三三二
四	三、六三八	二、三三一
五	三、五五六	二、二七一
六	三、四二五	二、一九五
七	三、六二七	二、二九五
八	三、六三二	二、三二〇
九	三、五六三	二、二六九
當場原種	三、六五〇	二、三二一
二、玉 錦		
系統番號	反當籾容量	反當玄米容量
一	三、三一三	一、九三一
二	三、三九四	二、〇四三
三	三、六二二	二、一八九

系統番號	反當籾容量	反當玄米容量
四	三、五五七	二、一六九
五	三、三六七	二、〇一九
六	三、五三七	二、一五〇
七	三、五七三	二、一二九
八	三、四三一	二、一〇七
九	三、三六四	二、〇六五
當場原種	三、五二八	二、一四五

第三 原 種 圃

(一) 水 稻 原 種 田

水稻原種ヲ生産センガタメ東茨城郡大塲村、西茨城郡西那珂村、久慈郡西小澤村、新治郡眞鍋町ニ各一反歩、結城郡石下町ニ二反歩計六反歩ノ原種田ヲ場外ニ設置シ上總コボレ、玉錦、愛國、關取、常豊、金頸ヲ栽培シ場内ニ信州金子、石白、藤早稻、大塲、高津、常豊、國益、神力、改良玉錦、荒木、信×愛、無芒愛國、太郎兵衛糯、金砂糯、關取糯合計二十種ヲ栽培セリ而シテ原種田ハ全部一本植トナシ生育中各株ノ特徴ヲ仔細ニ調査シ異株ノ混在スル時ハ之ヲ抜キ取り收穫調製ニ至ル迄充分ナル注意ヲ拂ヒ以テ純良ナル種子ノ採收ニ努メタリ今其作付反別及收量ヲ品種別ニ示セバ左ノ如シ







### 第四 果樹栽培試験地

各種果樹ノ適否ヲ試験スルト共ニ栽培方法ヲ實地ニ示サン爲メ明治四十四年以來左ノ如ク縣下四ヶ所ニ果樹試験地ヲ設置シ重要ナル管理ハ場員ヲ派シテ監督セシメタリ本年ハ年數六年ニシテ各樹種何レモ結果スルヲ得タリ

一、東茨城郡上大野村細谷反別二反八畝八歩

#### 栽植樹種

梨 眞鍮市原早生、獨乙、早生赤、明月、晚三吉、今村秋

洋梨 バートレット、ビーバリー、ウインター、バートレット、ヂュセスダングレー

桃 離核水密

無花果 カリフォルニアブラック、ホワイトゼノア

杏 ローヤル

櫻桃 ブラックタータリアン、アーリーリッチモンド

苹果 旭紅玉

葡萄 甲州、ハートフォード、プロローイック、グリーンマウンテン

### 二、多賀郡關本村福田反別一反七畝十一歩

#### 栽植樹種

梨 獨乙、早生赤、今村秋

洋梨 バートレット、ウインター、バートレット、ヂュセスダングレー

桃 土用水密、上海水密

無花果 ブラウンターキー

苹果 リーブランドラスベリー、旭、中成子、國光

葡萄 グリーンマウンテン、ハイランド

枇杷 田中

### 三、行方郡麻生町大字麻生反別二反二畝二十九歩

#### 栽植樹種

梨 長十郎、晚三吉

桃 スニード、離核水密

無花果 ブラウンターキー、カリフォルニアブラック、ホワイトゼノア

葡萄 ハートフォード、プロローイック



枇杷 茂木、田中  
 柿 天神御所、富有、衣紋  
 柑橘 温州、夏橙、ワシントンネーブル、トムソンネーブル  
 四、筑波郡田井村大字白井反別三反歩  
 栽植樹種

洋梨 バートレット、ビーバリー  
 桃 上海水密、トライアンフ、アーリークロフォード  
 苹果 中成子、國光  
 櫻桃 アーリーリッツモンド、ナボレオン  
 葡萄 甲州、ハイランド  
 枇杷 田中、土肥白  
 柿 次郎、天神御所、富有、衣紋  
 柑橘 温州、夏橙、ワシントンネーブル、トムソンネーブル、バレンシヤレイト

第五 調 査  
 (一) 玄米並ニ粃貯藏ニ關スル調査

一、普通玄米ノ月別精白ノ狀況  
 二、普通今摺米ノ月別精白ノ狀況  
 三、乾燥ノ良否ト今摺米ノ月別精白ノ狀況  
 (イ) 本試験ハ大正五年二月一日ヨリ始マリ大正六年二月一日ヲ以テ終レリ  
 (ロ) 本試験ニ供シタル品種ハ第一及第二ハ中稻玉錦第三ハ中稻常豊トス而シテ第一及第二ハ普通乾燥ナレトモ第三ハ充分乾燥、不充分乾燥ノ別ヲ設ケ充分乾燥ハ不充分乾燥ノ粃ヲ更ニ晴天二日間陽乾シタルモノナリ  
 (ハ) 本試験ノ玄米ハ本縣規定ノ改良俵裝ニ據リ粃ハ普通農家ノ行フ方法ニ準シ一俵五斗入トナセリ  
 (ニ) 本試験ノ貯藏場所ハ當場ノ土藏トス  
 (ホ) 本試験ヲ行フニ當リ左記項目ニ依リ毎月上旬ニ調査ヲ行ヒタリ  
 粃摺歩合、 粃殻量、 玄米ノ色澤、 玄米一升重量、 玄米ノ水分、  
 玄米ノ剛度、 精白時間、 搗耗歩合、 碎米量、 糠量  
 本調査ノ結果左ノ如シ  
 一、普通玄米ノ月別精白ノ狀況



色澤ニアリテハ二月ヨリ五月迄ハ敢テ異ナル事ナシト雖モ六月七月ト次第ニ月ヲ重ヌルニ從テ惡變シ水分ニアリテハ二月ヨリ九月ニ至ル迄ハ次第ニ其含有量ヲ増シ十月十一月十二月ト次第ニ減少シ一月二月ニ至レバ稍増加セシヲ見ル剛度ニアリテハ月ヲ經ルニ從ヒテ減少シ一升重量ニアリテハ何レノ時期ヲ問ハズ殆ント差異ナシ又精白時間ニアリテハ時期ニ依リ殆ント長短ナク搗減歩合ハ二月ヨリ十一月迄ハ次第ニ増加シ十二月及翌年一月二月ニ至レバ稍減少セリ碎米及糠量ハ七月迄ハ殆ント差異ナシト雖モ八月以後ハ次第ニ増加セシヲ見ル

二、普通今摺米ノ月別精白ノ狀況

玄摺歩合及粃穀量、玄米ノ色澤、一升重量、水分等ニアリテハ時期ニ依リテ殆ント異なる事ナシト雖剛度ニアリテハ二月ヨリ十一月迄ハ月ヲ重ヌルニ從テ減少シ十二月、一月、二月ト稍増加セシヲ見ル又精白時間ニアリテハ殆ント差異ナク搗減歩合、碎米量及糠量等ハ六月迄ハ殆ント差異ナク七月以後ハ月ヲ重ヌルニ從ヒテ増加スルモノ、如シ

三、乾燥ノ良否ト今摺米月別精白ノ狀況

普通乾燥充分、乾燥トヲ問ハズ玄摺歩合、粃穀量、玄米ノ色澤、一升重量等ハ時期ニ依

リテ殆ント差異ナク水分ニアリテハ二月ヨリ十二月迄ノ間ハ殆ント差異ナク翌年一月二月ニ至レバ稍増加シ剛度ニアリテハ月ヲ重ヌルニ從ヒテ次第ニ減セリ又精白時間ニアリテハ殆ント差異ナク搗減歩合、碎米量、糠量等ハ二月ヨリ九月迄ハ大差ナキモ其後ハ月ヲ重ヌルニ從ヒテ増加セルヲ見ル

而シテ普通乾燥ヲ不充分乾燥ニ比スレバ水分、剛度ニアリテハ著シキ差アリト雖モ其他ノ点ニアリテハ殆ント差異ナク惡變ノ程度等ニアリテハ殆ント軒輕アル事ナシ

第六 練 習 生 (第三回修了者)

本年度修了生次ノ如シ

甲種	練	習	生	(イロハ順)
那珂郡	菅谷村	飯塚	四郎	壽
鹿嶋郡	上島村	飯島	昇平	壽
東茨城郡	川根村	細谷	錄夫	平
真壁郡	太田村	堀江	政治	夫
那珂郡	菅谷村	大和田	登一	郎
全郡	菅谷村	大和田	春壽	郎
結城郡	宗道村	大月	志津	摩



種別	期日	開設地	修了人員
東茨城郡河和田村		高倉	政
多賀郡南中郷村		瀧ヶ	敏
新治郡志筑村		瀧ヶ	弘
眞壁郡上野村		堤崎	義
水戸市下市細谷		根本	治
東茨城郡渡里村		内藤	男
全鹿島郡徳宿村		小島	清
眞壁郡關本町		國府	實
水戸市上市北三ノ丸		安藤	平
筑波郡菅間村		青木	誠
那珂郡菅谷村		平野	一
全那珂郡静谷村		杉山	一
眞壁郡練生		中葦	一
眞壁郡川西村		淳一	
東茨城郡西郷村	大正六年自一月廿八日至三月三日		三〇

全園藝講習	至自	新治郡三村	三五
	自二月十四日		
	至二月十五日	稻敷郡阿波村	一九
	自二月十七日	西茨城郡笠間町	二四

第八 肥料配合實指導地

肥料配合實地指導ハ農家ノ自給肥料ヲ基本肥料トナシ販賣肥料ヲ補助肥料トナシ經濟的施肥ノ指導ヲナスモノニシテ其方法ハ豫メ準備調査書ニヨリ充分ナル調査ヲナシタル後設計書ヲ交付シテ指導ヲ行ヒタリ而シテ本年度ハ縣是模範實行町村ノ實行組合ニ對シ麥作ノ肥料配合指導ヲナシタリ即チ左ノ如シ

郡名	町名	村名	指導數
東茨城郡	稻荷村、橋村		一八
西茨城郡	尖戸町、大池田村、西那珂村、北那珂村		二三
那珂郡	木崎村、大賀村、川田村		二三
久慈郡	黒澤村、上小川村、袋田村、依上村、佐竹村		三七
多賀郡	北中郷村、關本村、關南村、松岡村、國分村、櫛形		三七
鹿島郡	大谷村、輕野村		一〇



郡市別	町村數	夏季驅除反別	冬季驅除反別	合計
那珂郡	一四	二一四,〇〇〇	一,八八七,〇〇〇	三,七四九,〇〇〇
多賀郡	四	七〇,〇〇〇	六九四,七〇〇	二,一〇一,〇〇〇
鹿島郡	八	七〇,〇〇〇	一,三八〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇
行方郡	八	二六一,〇〇〇	二八五,〇〇〇	五四六,〇〇〇
新治郡	一一	五六二,〇〇〇	一,三九四,八〇〇	一,九五六,八〇〇
筑波郡	五	五六一,〇〇〇	一,三〇九,五〇〇	一,三〇九,五〇〇
眞壁郡	七	七九六,〇〇〇	六〇九,〇〇〇	一,四〇五,〇〇〇
結城郡	二〇	四七八,〇〇〇	四,九一八,三〇〇	五,三九六,三〇〇
猿島郡	二九	二,一三五,〇〇〇	六,四一二,〇〇〇	八,七二七,〇〇〇
北相馬郡	一一	三八七,五〇〇	三,八一四,三〇〇	三,八一四,三〇〇
合計	一七二	五,二〇三,五〇〇	三一,五〇八,二〇〇	三六,七一七,七〇〇

### 第九 野鼠驅除

野鼠室扶斯菌ヲ培養シ培養費及運賃ノ實費ヲ徴收シ各郡へ交付シ以テ野鼠驅除ヲ行ヒタリ、各郡ノ驅除反別左ノ如シ

郡市別	町村數	夏季驅除反別	冬季驅除反別	合計
那珂郡	一四	二一四,〇〇〇	一,八八七,〇〇〇	三,七四九,〇〇〇
多賀郡	四	七〇,〇〇〇	六九四,七〇〇	二,一〇一,〇〇〇
鹿島郡	八	七〇,〇〇〇	一,三八〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇
行方郡	八	二六一,〇〇〇	二八五,〇〇〇	五四六,〇〇〇
新治郡	一一	五六二,〇〇〇	一,三九四,八〇〇	一,九五六,八〇〇
筑波郡	五	五六一,〇〇〇	一,三〇九,五〇〇	一,三〇九,五〇〇
眞壁郡	七	七九六,〇〇〇	六〇九,〇〇〇	一,四〇五,〇〇〇
結城郡	二〇	四七八,〇〇〇	四,九一八,三〇〇	五,三九六,三〇〇
猿島郡	二九	二,一三五,〇〇〇	六,四一二,〇〇〇	八,七二七,〇〇〇
北相馬郡	一一	三八七,五〇〇	三,八一四,三〇〇	三,八一四,三〇〇
合計	一七二	五,二〇三,五〇〇	三一,五〇八,二〇〇	三六,七一七,七〇〇

### 第十 種苗配付

水稻原種トシテ採種セシモノハ各郡ノ採種田大正五年度限廢止セラレタルヲ以テ不用ニ歸シタルニヨリ各郡ノ希望ヲ徴シ配付セシモノ左ノ如シ

郡市別	町村數	夏季驅除反別	冬季驅除反別	合計
那珂郡	一四	二一四,〇〇〇	一,八八七,〇〇〇	三,七四九,〇〇〇
多賀郡	四	七〇,〇〇〇	六九四,七〇〇	二,一〇一,〇〇〇
鹿島郡	八	七〇,〇〇〇	一,三八〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇
行方郡	八	二六一,〇〇〇	二八五,〇〇〇	五四六,〇〇〇
新治郡	一一	五六二,〇〇〇	一,三九四,八〇〇	一,九五六,八〇〇
筑波郡	五	五六一,〇〇〇	一,三〇九,五〇〇	一,三〇九,五〇〇
眞壁郡	七	七九六,〇〇〇	六〇九,〇〇〇	一,四〇五,〇〇〇
結城郡	二〇	四七八,〇〇〇	四,九一八,三〇〇	五,三九六,三〇〇
猿島郡	二九	二,一三五,〇〇〇	六,四一二,〇〇〇	八,七二七,〇〇〇
北相馬郡	一一	三八七,五〇〇	三,八一四,三〇〇	三,八一四,三〇〇
合計	一七二	五,二〇三,五〇〇	三一,五〇八,二〇〇	三六,七一七,七〇〇



郡別	麥原種配付數量														
	合相計	北馬	猿島	結城	筑波	眞壁	新治	稻敷	行方	鹿島	多久	那珂	西茨城	東茨城	水戸
竹林	二、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
關取	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九合	一、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
穗揃	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
ゴメルテ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
白英	二、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
富國	八、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
赤稈	三、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
資撰	一、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
横綱	五、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	二、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

郡別	右ノ外一般希望ニヨリ配付セシモノ左ノ如シ													
	合相計	北馬	猿島	結城	筑波	眞壁	新治	稻敷	行方	鹿島	多久	那珂	西茨城	東茨城
竹林	一、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
關取	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九合	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
穗揃	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
ゴメルテ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
白英	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
富國	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
赤稈	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
資撰	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
横綱	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇



又一般希望ニ應シ相當代價ヲ以テ拂下ケタル種子次ノ如シ

小豆	〇、〇一六〇
大豆	一、三三〇
小麥	一、五二〇
大麥	一、五二〇
稗	〇、四〇五
梨苗	九一〇
桃苗	八六九
葡萄苗	六五
柿苗	二三八
無花果苗	一〇〇
枇杷苗	六五
櫻桃苗	二五
苹果苗	四
水稲	二、三〇五
陸稻	〇、〇二〇
大豆	〇、〇二〇
大麥	〇、八九五
小麥	〇、二二九〇

第十一分析

本年度ニ於テ肥料土壤其他ヲ分析シタル成績左ノ如シ

(一) 分析件數及成分數

場用分析	件數	成分數
手數料ヲ收メタルモノ	一三六	一四三
依頼分析	四五	一四三
無手數料ノモノ	一〇	一四三
計	三三三	六〇二

(二) 供試品ノ種類及件數

肥料	件數
土壤	一九三
農產物	九六
計	三三四

(三) 肥料ノ種類及件數

堆肥	件數
過磷酸石灰	七
配合肥料	三七
計	三三



菜種油粕 二  
 魚肥 八  
 大豆粕 六  
 煙炭肥料 五  
 米糠 三  
 胡麻油粕 三  
 生大豆 二  
 石灰窒素 二  
 苜蓿 二  
 綿實粕 二  
 硫酸加里魚糞汁麥ノ仕上粉煙草中骨灰甘藷莖葉灰海草殘滓乾燥鷄糞鯨節粕真菰腹  
 貝粉末以上一件ツ、

合計 百九十三件

(一) 印刷 雜 配付  
 大正四年度業務功程 一  
 農事試驗成績 第二十報 〇

蔬菜試驗成績 第四報 一  
 稻作要綱 一  
 麥作要綱 一  
 堆肥要說 一  
 綠肥要說 一  
 稻作試驗成績要報 一  
 花卉の作り方 二  
 茨城縣立農事試驗場一覽 二  
 重要蔬菜栽培一覽表 二  
 水稻品種分布調査 二  
 結球白菜の作り方 二  
 果樹の作り方 二  
 肥料配合指示表 二  
 肥料成分表示圖 二

(二) 文書往復 一  
 收受 四五一一件

(三) 場員出張 一

回数 二  
 延日數 一四〇九件







全 住 谷 彌 三  
 書記 中 崎 源 之 介  
 技手 東 久 崎 四 郎  
 書記 郡 本 司 常 良  
 技手 伊 藤 新 次  
 全 田 中 文 彦 清 國  
 技手 對 藤 義 兼  
 技手 藤 井 外 彌  
 平 野 山 太 朗

(六) 員  
 六六五一人

(五) 委員人  
 其 中 一 人  
 委員 藤 井 外 彌  
 藤 井 外 彌 二 人

(委員)  
 一 正  
 一 副  
 二 員

大正六年五月二十日印刷  
 大正六年五月廿四日發行

茨城縣立農事試驗場

東茨城郡酒門村

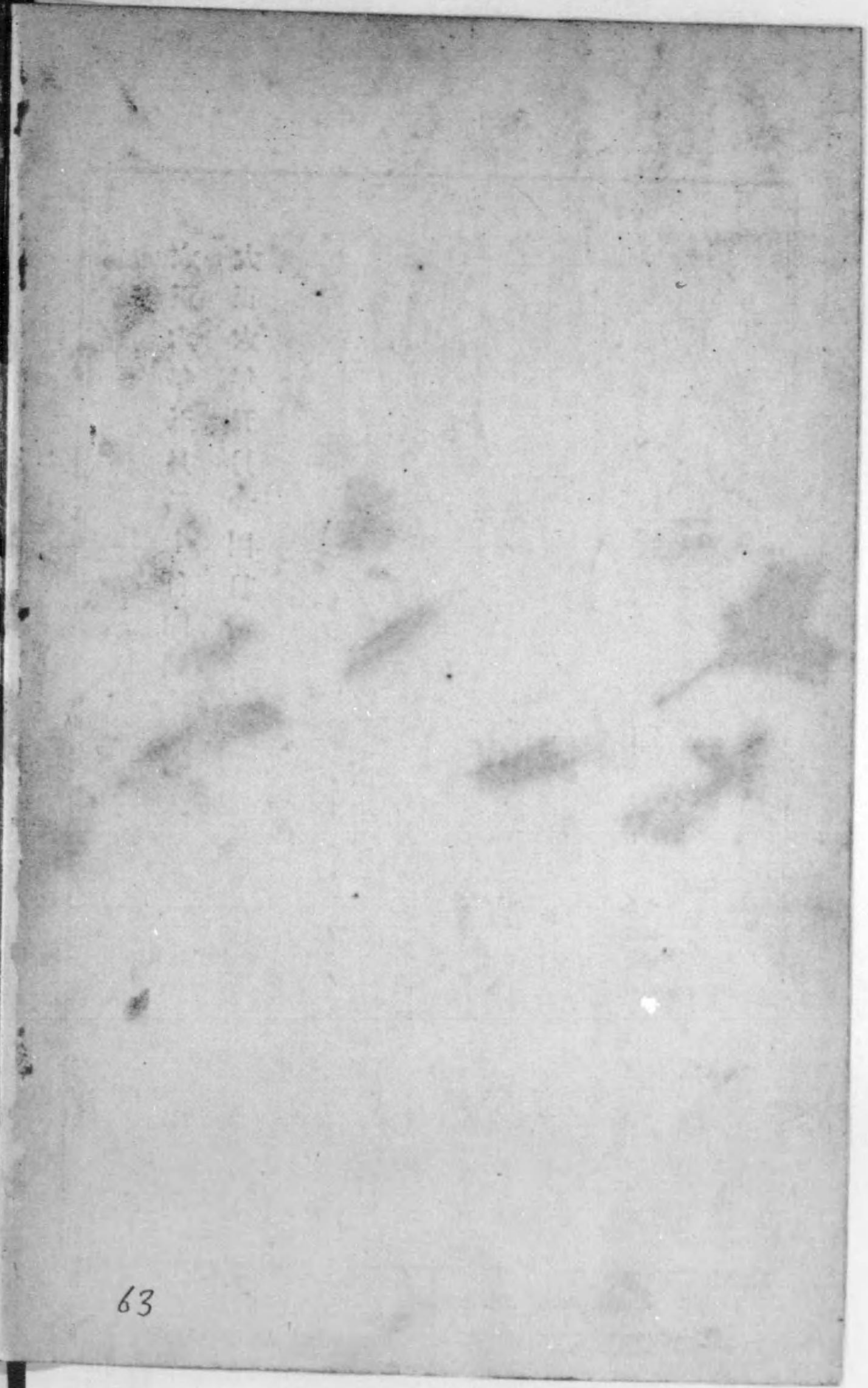
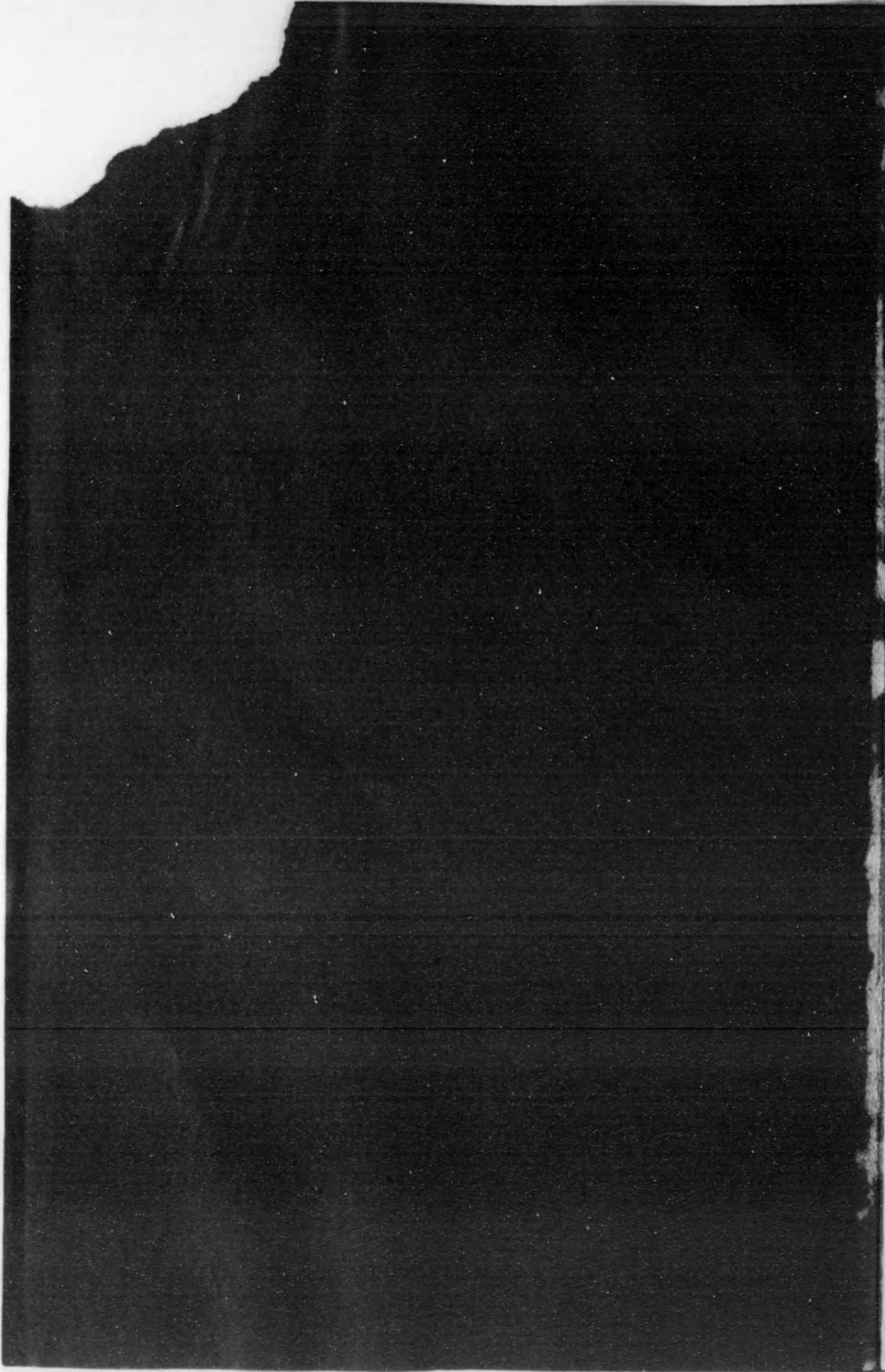
印刷者 吉 田 政 男

茨城縣水戸市常磐神崎六十五番地

印刷所 合名 加納印刷所

茨城縣水戸市市泉町千百〇四番地







1424  
325



終